

## <参考>平成30年度における10年債発行額の減額調整等について

- ◇ 平成30年度大阪府債発行計画策定段階で当初見込めなかった資金需要の減少により、年間の発行総額を300億円減額する必要が生じたため、下半期発行計画策定時に調整を行った。
- ◇ その際に、低金利の市場環境下を活かすため、超長期債の発行枠として、フレックス枠は当初予定通りの1,000億円を維持し、地方債の供給量の多い10月～12月は需給悪化の懸念があることなどから、10月～12月における10年債の発行額を減額した。

### ○ 10年債発行額の減額

発行月	10月	11月	12月
発行額	100億円	100億円	100億円
応募者利回り	0.221%	0.200%	0.193%
発行額を200億円とした場合の 応募者利回り(試算)	0.249%	0.234%	0.256%

⇒ 発行額を減額したことで、応募者利回りの低下に寄与

### ○ フレックス枠を活用した超長期債の発行について

	当初計画		下半期計画策定時		最終見込
発行総額	7,200億円	➡	6,900億円	➡	6,900億円
平均調達期間	8.80年		8.53年		8.57年
平均発行年限	9.58年		9.47年		9.83年

⇒ 下半期発行計画策定時には、平均調達期間及び平均発行年限は減少したが、7月に15年・20年定時償還債を計300億円、9月に20年満期一括償還及び30年定時償還債を計500億円発行したことで、平均発行年限は、当初計画を上回る見込み。